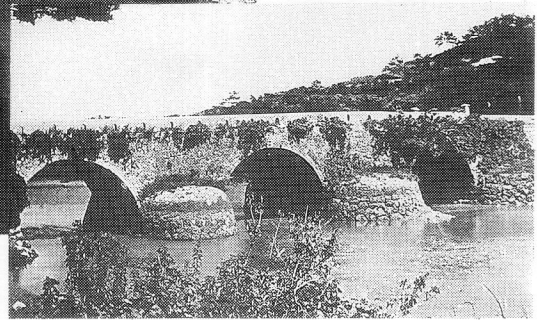


市指定文化財  
有形文化財

まだんばし いこう  
「真玉橋遺構」



発掘調査で確認された  
真玉橋の石橋遺構



戦前の真玉橋

(田辺 泰 著 『琉球建築大観』より)

まだんばし しゅりじょう ぐんじてきようそ  
真玉橋は1522年に首里城ならびに軍事的要素  
である那覇港を防御する目的として、尚真王に  
よって架けられた橋で、首里王府と南山を結ぶ交通の要所でもありました。

真玉橋は当初は木橋であり、中橋を真玉橋、南に世持橋、北に世寄橋、両端は名のない橋でした。1707年に改築工事が開始され翌年に石橋に架けかえられました。1809年には大雨の為に川が氾濫し世寄橋が破損した為に仮の木橋を架けたが再び大雨によって破壊されました。

その後、1836年に世寄橋を改築し、その北側に新たな橋の世済橋を築き工事は翌年に終了したといわれます。

戦前までは1837年に重修した姿をとどめていましたが、先の大戦により旧日本軍によって一部が破壊されました。その後は米軍によって鉄橋が架けられ、石橋の部分も埋められてしまいました。1963年にはコンクリート製の橋に架けかえられ、1995年まで使用されていました。

1995年の試掘調査によって埋もれていた真玉橋の石橋遺構が確認され、1996年に行なわれた調査では当時を忍ばせる石畳やアーチ部分が豊見城村、那覇市の両市村で発掘されました。戦後、半世紀を過ぎて再び「旧真玉橋」の風格ある姿を表した事によって当時の石工技術は目を見張るものがありました。

